

---

## 8. 大和における木の生活文化再生システム構築の研究—伝統的町家、民家の保全・修復—

大和における木の生活文化再生システム研究会  
(奈良県大和郡山市)

---

### 1. 研究の目的

伝統的な町家がつくる町並みの風景は、訪れる人たちに歴史ある町の営みを温かく感じさせてくれる。個々の町家はひっそりと町並みにとけ込みながらも、格子や虫籠窓の豊かな表情や上げ床几のような仕掛けの楽しさを見せ飽きさせない。

古くから町家と町を支えてきた大工等の存在も重要である。町家の建設を行い以後の相談や維持・補修等トータルな関わりを持った大工の存在によって、町家の維持管理がうまく行われ町並みも存続してきたものといえる。

しかし、最近では古い町並みのそこかしこに空き地や駐車場や新しい家やアパートが目立つようになってきている。その背景としては、町家が住みにくい等の理由から建替えるケース、地下の高騰により相続税等の負担に耐えられないため町家を手放し壊されるケース、また、駐車場やアパート経営等いわゆる不動産経営に転じるケースなど、それぞれの町家の所有者の動機は様々に考えられる。

新しいライフスタイルにあった町家の改造や設備の改善、所有者の負担を軽減する公的な施策などによって、もっと町家を住みやすく、町と町家に住み続けていけるような環境を造っていく必要がある。

一方、地球環境の危機が叫ばれ、様々な資源の枯渇が懸念される中で、伝統的な町家を維持修復し、町並みを支えていくことは次のような意義がある。

第一に、わが国における住宅供給において、ハウジングメーカーなどは古い住宅は壊して建て直した方が経済的、合理的であるといった考え方が主流を占めるようになってきている。いわば家の使い捨てといえよう。これに対して、町家の維持修復はメンテナンスをしっかりと行うことで100年それ以上の寿命を家に与え、これを支える大工の技術とともに、町が持つべき持続可能な技術として位置付けられる。

第二に、コストの面から外材に依存してきたわが国の住宅供給から、もう一度地域産業としての林業を立て直す契機となること。歴史的な町並みや集落は奈良県下の各地にあり、かつては県内の山林が需要をまかなっていたものだろう。相互補完の関係の中で林業生産を活性化し、山林の維持管理も行えるような環境を作る可能性がある。

「大和における木の生活文化再生システム研究会」では、伝統的な町家の維持修復を支援する運動として、資材の供給から技術的アドバイス、実際の改修さらには費用負担の軽減のための公的施策の充実など体制の確立によって総合的な再生システムを構築するものである。

## II. 研究の内容・方法

### 1. 奈良県における町家・民家のリニューアル調査

#### (1) 関連産業団体へのヒヤリング

～かつて県下で行われていた町家・民家の建設、特に維持修復の実態を把握する。

- 1) 林業関係
- 2) 製材・流通関係
- 3) 建設関係
- 4) 計画・設計関係

#### (2) 既存調査の整理

～地域生活や文化と木とのつながりや、その豊かさを検証する。

- 1) 木の生活文化に関する調査
- 2) 大和郡山、奈良町、今井町における生活文化に関する調査

#### (3) 助成など制度のスタディ

### 2. 対象区域での町家・民家のリニューアル調査

#### (1) 大工さんへのヒヤリング

～大和郡山、奈良町、今井町のリニューアルの実態、現在の問題点を明らかにする。

- 1) 従来の町家の維持修復の実態
- 2) 最近の情勢

#### (2) 既存調査の整理

～伝統的な町家・民家の現状を検証する。大和郡山を中心に複数の町家のプラン・住まい方等の調査

- 1) 町家・町並み調査

### 3. 大和町家のリニューアル調査

#### (1) 住民の生活意識・意向の把握

～実際の住まい手の町家や町並みに対する評価。特に伝統的な町家の住まい手の維持修復・改善に対する意向の把握

～維持修復・改善箇所等のニーズの把握

～維持修復・改善が困難な理由の把握

- 1) 生活環境への意識
- 2) 伝統的な町家に関する意識
- 3) 住まいの改善に対する意向
- 4) 改善の実施に伴う問題点



大和郡山の町並み

#### (2) 土地・建物の現状把握

～維持修復・改善や伝統的な町並みの変化の把握、既存事例の調査

～地域住民自身による再発見・地域の空間への提案検討

- 1) 現地調査
- 2) 資料調査

#### 4. ケーススタディをもとにしたリニューアルシステムの検討

##### (1) ケーススタディにおける課題等の整理

～伝統民家等の維持修復・改善を支援する総合的なシステムの研究

##### (2) リニューアル・ネットワークの検討

##### (3) リニューアルを促進・支援する基盤づくりに関する検討

##### (4) リニューアル産業として成立するための課題整理

～リニューアル産業として林業・流通・計画・設計・施工・住まい手が連携し、かつ永続的に存続していけるための体制などの検討

～歴史的な町家・町並みの維持管理システムの構築

### III. 結論・考察

歴史的町並みの残る地域の町家は、様々な改善を重ねながら現在まで住み続けられている。その多様な改善要求に対処してきたのが大工職人である。彼らは新築の仕事よりも修繕や増改築の仕事が多く、地域の居住者と密接な関係を保ちながら活動を行っている。つまり、歴史的市街地において、長年にわたり町家の存続を可能としてきたのは、居住者の要求に適切に対処することができた大工職人に負うところが大きい。



研究会

大工職人の重要性が本研究により認識できたものの、現実には仕事が減少してきている。大工職人は建築活動の地域性が強く、地縁血縁による紹介で仕事を行っている。地域外の居住者からは仕事の依頼が少ない。そのため、居住者へ大工職人の存在とその仕事内容についての情報を伝えていくとともに、居住者もその良さを認識する必要がある。

一方で、大工職人も社会環境に積極的に対応していかなければならない。居住者のニーズの把握、忙しい時の仕事の分担などで対応できる仕組み、技術の進歩による設備機器・新しい材料等の知識を取り入れていかなければならない。

歴史的町並みの居住者の改善意向に建替えの割合が高いのは、改善後の情報が豊富で居住者の要望が満足できるが、改造は居住者の要望を説得する完成のイメージが想像できない。そのため大工職人は居住者の要望に応える改善事例を多く蓄積し、積極的に提案していくことが必要となる。